

福島原発事故被害から 健康と暮らしを守る会

会報 4号 2024.10.10



11月9日「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」 第3回 総会 開催します

～医療費等・減免措置見直し反対、国の責任による「健康手帳」交付、
完全賠償を求めて～

私たちの活動に深いご理解と、多大なご協力をいただいている皆さまに感謝を申し上げます。

さて、「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」は、発足してから3年を過ぎました。お陰様で、歩みは遅くとも着実に前進しています。皆様には通年にわたり、医療費等支援措置の継続及び、国の責任による「健康手帳」交付を求める署名や、政府交渉への参加など、会員・サポーター加入と併せて、心温まる励ましをいただいています。重ねて御礼申し上げます。

つきましては、この1年を振り返り、活動報告と意見交換を行い、次への着実な一歩を踏み出すために「第3回総会」を開催致します。国策で進めた原発で重大事故を起こした国の責任を厳しく問い、低線量被ばくの健康への影響を過小評価し否定をする国の姿勢を正し、被ばくを強いられた広範囲の人々とともに、国の責任による「健康手帳」交付を求める運動の前進をはかる決意です。皆さまのご参会をお願いし、下記ご案内を申し上げます。

—今総会の意義と課題—

第1：発足後3年にあたり、会の目的と組織活動の現状を確認し、会の目的・意義を再確認します。

第2：この1年間の活動を振り返り、学習と交流、連帯、交渉と組織活動の教訓や課題を明示し、次のステップへと前進します。

第3：脱原発を巡る情勢の下での会の位置を見極め、全体の課題追及と併せて目的達成に向けた取り組みを強化します。

「守る会」は、主に、医療費等減免措置の段階的廃止に反対し、また国の責任による「健康手帳」交付、完全賠償を求めて発足しました。小さな旗揚げかもしれませんが、国策である原子力重大事故被害が続く限り、被害事実を消し去ることはできません。「被害者の声」の受け皿となり、この旗に結集すること疑い得ません。第3回総会を皆で成功させようではありませんか！

福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会 事務局長 佐藤龍彦

「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」第3回 総会

日時：11月9日午後 1:30～4:00

場所：浪江町地域スポーツセンター

(福島県双葉郡浪江町権現堂下馬洗田5-2)

内容：1. 活動報告・総括

2. 方針・活動計画・予算決算

3. 質疑・討論

4. 役員改選・アピール採択など

* オープニング：歌と演奏、紙芝居

問い合わせ：090-2274-6844(事務局・佐藤)

2024年6月21日・10団体呼びかけ政府交渉の報告 福島原発事故被害者への医療費減免措置継続と 健康手帳の交付を政府に迫りました

6月21日、「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」は、脱原発福島県民会議、原水爆禁止日本国民会議、原子力資料情報室など10団体とともに政府交渉を呼びかけ、厚労省・環境省・復興庁と交渉を持ちました。福島原発事故被害者を中心に、長崎、関東、関西などからも約30名が参加し、「医療費等の減免措置」見直しの政府方針撤回と措置継続および国の責任による全ての福島原発事故被害者への「健康手帳」（医療費無料化等）交付を政府に迫りました。

全国署名1万9,786筆を第二次提出(累計3万2,594筆)

冒頭に、「医療・介護保険等の保険料、医療費の窓口負担、減免措置の見直し方針撤回と、措置の継続、国の責任で全ての福島原発事故被害者に健康手帳（医療無料化）を求める」全国署名1万9,786筆（累計3万2,594筆）を、各省庁に第二次提出しました。「減免措置」削減が強行されて2年目に入中、「来年度概算要求が出される前に、是非とも改めて反対の声を届けたい」と、今回、新たな集約分を提出しました。

提出にあたり、紺野則夫「守る会」会長が、事故から13年経っても避難生活が続き、避難指示解除されても住民、特に子どもたちは戻れないという厳しい現状、帰還住民の多くが高齢者に留まる浪江町の実情を訴え、「医療費等、減免措置」の継続は不可欠、国の責任で「健康と暮らしを守ってほしい」と改めて強く求めました。



厚労省・環境省・復興庁は、「国策による原発事故被害者に、最後の最後まで国が前面に立ち責任持って対応」という基本方針を遵守し、医療費等減免措置を継続せよ！

しかし、厚労省・保健局（国民健康保険課）は、これまでの交渉回答と同じく、「医療費等、減免措置」見直し方針の経緯と説明を繰り返し、方針撤回の考えはないと表明しました。そして、2023年の「減免措置」削減開始後には、対象地域の実情を見聞きすることは一切行っていないと、被害者無視の許し難い返答でした。それに対し、参加者が「放射能は広範囲に拡散され、避難指示区域で止まったわけではない。公平性と言うなら、指示区域外からの避難者にも同じような支援がされるべきだったのでは。」と問い正すと、「減免措置は、放射能被害に対するものではなく、避難に伴う経済的負担に対する支援」であり、「あくまで避難指示区域からの避難者が対象だ」と厚労省は開き直りました。さらに、「今後、病状が改善することのない高齢者は不安を訴えている。」「避難解除になったら『国策による被害者』ではなくなるのか！」等々、追及すると、厚労省・保健局担当者は、まともに返答できず、被ばくに対する施策は「環境省で検討されるもの」、自分たちは「関係ない」と逃げるだけでした。

低線量被ばくでも「健康手帳」を交付し、医療保障などの援護を行なう「被爆者援護法」に準じた「新たな法整備」を福島原発事故被害者に！

厚生労働省原子爆弾被爆者援護対策室は、これまで「所管ではない」として交渉には出ませんでした。そこで今回は、原爆被爆者援護策に関する具体的質問を出して担当者の出席・回答を求めました。原爆被爆者援護対策室の担当者は「援護法」に基づく施策～「援護策」では、広島県の爆心地から3.5km（推定外部被曝線量1mSv相当）以遠の区域でも交付されている、公費で年4回の健診が受けられる、医療費は基本的に公費負担、等々～を具体的に説明しました。このことは、「福島原発事故被害者にも同じような施策を受ける権利がある」こと、「国は同様の施策を福島事故被害者に行う責任がある」ことを、私たち原発事故被害者自身が改めて確認する機会ともなりました。「被爆者援護策の経験を活かし、『原爆被爆者援護法』

に準じた、福島原発事故被害者のための『新たな法整備』を行うように。」との私たちの要請に対して、被爆者援護対策室からは、「所管ではないのでコメントする立場にない」、しかし「主管省庁の環境省の方からの要請があれば、対応していきたい」と、協力姿勢を示す返答がありました。原爆被爆者の闘いに学び、さらに運動を強め助け、政府の厚い壁を突き崩して行きましょう。

低線量被曝の健康リスクをより明らかにした国際核施設労働者調査(INWORKS)新報告を無視し「統一的基礎資料」改訂作業に反映しようとしないう環境省の責任逃れを許すな！

政府はこれまで一貫して、福島原発事故被害者の低線量被ばくによる健康影響は単なる「不安」であり、健康被害は起こらないかのように宣伝してきました。その根拠としているのが「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」(「統一的基礎資料」)です。福島及び全国での研修など、リスクコミュニケーションで参照すべき資料に推奨され、活用されています。事実上、これは政府の統一見解のはずです。しかし、今回の交渉で、2023年8月に発表された国際核施設労働者調査(INWORKS)で、低線量・低線量率被ばくの健康リスクがますます明らかになっていることを示して迫ると、環境省は、①『統一的基礎資料』は政府統一見解ではない、②「検討委員会」の事務局も含めて改訂作業を請負業者に丸投げしている、③環境省は成果物(改訂された『統一的基礎資料』)を受け取るだけだ、という無責任極まりない回答をしました。しかし、参加者のさらなる追及を受け環境省は、「統一的基礎資料」の内容の「最終的な責任は環境省が持つ」と、返答をせざるを得ませんでした。

原発事故被害者を結集し、全国の反原発運動とも繋がって、運動をさらに強め広げよう

「医療費等、減免措置」の見直し方針は、与党方針を受けた2021年の閣議決定「第二期復興創成期間以降における東日本大震災からの復興の基本方針」に基づく施策として強行されています。これは、福島のような重大事故が起きてもその被害は「大したことない」、「10年経てば、被害はなかった」かのようにして、全国の原発を再稼働し、原発推進を進めて行こうとする政府方針とつながっています。今後も引き続き、福島県内外の多くの原発事故被害者を結集し、全国各地で被害者支援に取り組む人々、反原発・反核運動、原爆被爆者・被爆二世運動、人権擁護運動、環境保護運動、等とも連帯し、その大きな力を背景に政府交渉にも取り組み続け、原発事故被害者支援切り捨て反対、国の責任で全ての原発事故被害者へ「健康手帳交付」など「被爆者援護法」に準じた新たな法整備を実現させましょう。全国署名をさらに拡大しましょう。

被爆 79 周年・原水爆禁止世界大会・広島大会参加

8月4日～6日、原爆投下から79年を迎えた広島で原水爆禁止世界大会・広島大会が開催されました。紺野則夫会長が、8月5日の大会「ひろば」企画の「被ばくを許さない集い」で、福島の現状と「健康手帳」を求める取り組みについて報告を行いました。

「事故によって被ばくを強いられた中で、特に子どもたちの健康への影響が心配だった。被ばくの影響を調べてもらうことになり、その採血の時に泣いた幼い子どもの涙が畳に落ちた音を今でも覚えている。浪江町はまだ帰還困難区域を抱えている。避難解除から10年で、しかも首長とだけ相談して医療費等支援を打ち切るとは、とんでもない話だ。原発事故被害者の健康を保障する新たな制度が必要。＜健康手帳＞は自分たちの命と暮らしを守ってくれるものだ。」と、紺野会長は切々と思いを語り、全国署名への協力を訴えました。そして、被爆二世をはじめ全国の方々との連帯の思いを強くしました。

大会に先立ち、4日に広島被団協事務局を訪問した紺野会長は、箕牧智之理事長と再会し、激励の言葉に力づけられました。



～ウラン採掘被害を受けた米先住民女性を迎えて交流～

核兵器も原子力発電も、核エネルギーの元になるウラン鉱石の採掘・精錬から始まります。ウラン採掘・精錬は、その多くが世界中の先住民の土地で、環境汚染や採掘・精錬労働による被害を先住民に押し付けながら行われてきました。

被爆 79 周年原水禁世界大会・広島大会（8月4日～6日）での世界の核被害者＝ヒバクシャとの連帯のために、原水爆禁止日本国民会議が、ウラン採掘・精錬の汚染被害を受けた先住民ナバホのコミュニティからエイディス・フッドさんとテラシタ（テリー）・ケヤンナさんを招聘しました。広島大会の後の8月8日～10日、福島原発事故被災地での視察・交流を「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」として受け入れました。葛尾村、檜葉町、浪江町・津島、そして大熊・双葉を回って、新地町でも視察・交流を行いました。特に、「帰還困難区域」を抱える浪江町・津島では、「ふるさとを返せ 津島原発訴訟」を闘っている原告の方々とも交流し、「国や企業が人々に放射能被害を強いているのに、責任を取らず、補償も『原状回復』もしようとしない核被害の現状は同じだ」と、米先住民の二人と福島原発事故被害者は、互いに共感し、今後の連帯も誓って「エール交換」をしました。

（詳細はホームページの記事をご参照ください。）

国を超えて共有した思いを歌に込めて…

坂口美日

エイディスさんとテリーさんと、付き添いの振津さんを福島空港に迎えに行き、檜葉町の佐藤龍彦さん宅に送りながら、途中で葛尾村の私の生まれた土地にお連れした。家はすでに壊して更地になっているが、ここに家があったこと、放射能まみれのゴミになって運ばれていったことを話したときの、お二人の顔が忘れられない。国の違い、言葉の違いを超えた思いを共有した気がした。

佐藤さん宅では、お二人の話をじっくり聞かせていただいた。音楽団で歌を歌い、右に掲げた「ポートルジウム物語」を持ち歌にしていた私は、ウラン原産地の先住民の悲惨な状態を知っているつもりでいた。が、お二人の話を聞きながら、自分がまだまだ無知であったことを思い知った。そして、貧しい漁業の町に原発を持ち込んだ日本の電力資本と、貧しい先住民を騙しウランを採掘したアメリカ資本は、私たちの共通の敵であると、改めて思った。

次の日の津島視察後の交流の場で、「ポートルジウム物語」を歌った。国の違い、言葉の違いを超えた、悲しみと怒りを込めて。

（←左からテリー、坂口、エイディス）



ポートルジウム 物語

詩・曲=HIMAGIN

- 1 ここは小さな鉱山の村
誰がよんだかエルドラド
みつけた石ころ奇跡の塊
村は賑わい 名前も変わり
※村の名前はポートルジウム
ここ掘れウラン ウラン
よくばり爺さん 灰をばらまいて
花も命もちっていゆく
- 2 だれもかれもが夢中で掘った
奇跡の石ころ 爆弾に
はるかヒロシマナガサキめがけて
町は光と消しとんだ ※繰り返し
- 3 やがて村の男たちが
次から次へと病に倒れ
誰が読んだか未亡人の村
ひっそり静まり人影もなく ※繰り返し
- 4 おえらい方々の言うことには
隠せ漏らすな知られちゃいけない
書くな話すな言われて気付いた
歌うなどまでは言われちゃいけない
- 5 あれから何年たっただろうか ※繰り返し
私たちは学んだらうか
歌いつなごう これは今でも
どこかで起きてる 話です。 ※繰り返し

会員・サポーター募集！（入会ご希望の方は下記事務局までご一報ください）

*会員：福島原発事故被害地域住民・避難者、及び団体の方々
年会費：個人（一口 1000 円）、団体（一口 5000 円）

*サポーター：全国の方々
個人（一口 1000 円）、団体（一口 5000 円）

会費・カンパの振込先：郵便振替：02200-5-129891

加入者名：福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会

会報発行：福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会

事務局連絡先：福島県双葉郡檜葉町大字下小埜字広畑 5 4 番地 佐藤龍彦

電話・Fax：0240-23-4019 携帯：090-2274-6844

ホームページ：https://mamorukai1001.jpn.org/

